

環境経営レポート



第34期

(対象期間：2021年 9月～2022年 8月)

作成：2022年9月22日

株式会社プラスサービス

目 次

1. 組織の概要

- (1) 事業所名
- (2) 代 表 者
- (3) 所 在 地
- (4) 環境管理責任者名と担当者連絡先
- (5) 設 立
- (6) 資 本 金
- (7) 売 上 高
- (8) 組 織 図
- (9) 事業活動の内容
- (10) 事業規模

2. 対象範囲

3. 環境経営方針

4. 環境経営目標

5. 環境経営計画

6. 環境経営目標の実績

7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

8. 環境関連法規の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- (1) 事業許可一覧
- (2) 収集運搬車両の種類
- (3) 処理工程

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 組織の概要

組織の概要は、次のとおりです。

項 目	内 容
事業所名	株式会社プラスサービス
代 表 者	加 納 義 信
所 在 地	本社：鳥取県鳥取市賀露町北四丁目17番13号 工場：鳥取県鳥取市気高町下坂本濱崎933-2
環境管理責任者名と 担当者連絡先	環境管理責任者：森 本 悟 行 担当者：森 本 悟 行 担当者連絡先：TEL0857-82-3956 FAX0857-82-3957
設 立	1989年（平成元年）7月
資 本 金	1,000万円
売 上 高	6,560万円（2021年9月～2022年8月）
組 織 図	<pre> graph TD A["最高責任者 (代表取締役 加納義信)"] --> B["管理責任者 (工場長 森本悟行)"] B --> C["本社部門 (部門長 取締役 加納義也)"] B --> D["工場部門 (部門長 工場長 森本悟行)"] </pre>
事業活動の内容	①産業廃棄物の収集 ・運搬及び中間処分量（破碎・溶解、破碎、圧縮） ・発泡スチロールリサイクル ・廃プラスチック（ペットボトル）リサイクル ・空缶（鉄缶、アルミ缶）リサイクル ②特別管理産業廃棄物収集・運搬業 ・感染性産業廃棄物、廃酸の収集運搬
事業規模	① 売 上 高：6,560万円（2021年9月～2022年8月） ② 収集運搬量 ・産業廃棄物：303.37t（2021年9月～2022年8月） ・特別管理産業廃棄物：345.48t（2021年9月～2022年8月） ③ 中間処分量 ・中間処理量：171.78t（2021年9月～2022年8月） ・リサイクル原料化量：80.63t（2021年9月～2022年8月） ④ 従業員数：9名 ⑤ 敷地面積：本社 27.0㎡ 工場 853.0㎡ ⑥ 延床面積：本社 44.2㎡ 工場 450.6㎡

2. 対象範囲

対象範囲は、当社の全組織・全活動です。

項 目	対象範囲
事業所名	株式会社プラスサービス
対象範囲所在地	本社：鳥取県鳥取市賀露町北四丁目17番13号 工場：鳥取県鳥取市気高町下坂本濱崎933-2

3. 環境経営方針

経営理念

1. 地球の環境を守り、人間の健康づくり、幸福づくりに貢献する。
2. サービス＋サービス精神で、社会に貢献する。
3. 何事も、プラス志向（前向き・積極的）で対処する。

環境経営方針

【基本方針】

当社は、環境保全への取組みを企業経営の重要課題の一つと位置付け、産業廃棄物収集・運搬及び中間処分業、特別管理産業廃棄物収集・運搬業を通じて、環境に優しい「循環型社会への貢献」を目指します。

【行動指針】

- (1) 当社は、環境に与える影響を的確にとらえ、環境への汚染の予防及び環境保護を約束します。
- (2) 当社は、環境に関する法的及びその他の要求事項を遵守します。
- (3) 当社は、当社の事業活動を通じて環境改善目標を設定し、課題を解決しチャンスを活かし継続的な改善活動を実施します。
その中の重要項目を次のように定め、地球環境保全に取り組みます。
 - ①産業廃棄物中間処理（空缶・ペットボトルリサイクル）の推進
 - ②空缶・ペットボトル受入後の生産性の向上
 - ③電力使用量の削減
 - ④軽油使用量の削減
 - ⑤産業廃棄物の削減
 - ⑥水使用量の削減
 - ⑦地域貢献活動の推進
- (4) 当社の環境経営方針は、当社従業員へ周知する。

制定日 2016 年 4 月 11 日

改訂日 2021 年 9 月 1 日

株式会社プラスサービス

代表取締役社長 加納 義信

文書名：環境経営方針書

４．環境経営目標

環境への負荷の自己チェックの結果を踏まえ、２０２１年度の実績より、２０２４年度までの「環境経営目標」を次のとおり定めました。

【年度：９月～翌年８月】

環境経営目標		2021 年度 実 績	2022 年度	2023 年度	2024 年度
エネルギーの有効利用で CO ₂ 排出量の削減	・ CO ₂ 排出量の削減	57,781.09t-CO ₂	—	—	—
	・ 電気使用量の削減	19,359kWh	19,165kWh 以下	18,975kWh 以下	18,785kWh 以下
	・ 軽油使用量の削減	18,441ℓ	18,655 ℓ以下	18,470 ℓ以下	18,285 ℓ以下
(リサイクル)の推進 産業廃棄物中間処理	・ 空缶処理量 鉄缶	11.8 t	12.0 t 以上	12.1 t 以上	12.2 t 以上
	・ 空缶処理量 7ℓ缶	19.4 t	19.5 t 以上	19.6 t 以上	19.7 t 以上
	・ 廃プラスチック量 (圧縮量)	38.3 t	38.5 t 以上	39.0 t 以上	39.5 t 以上
産業廃棄物排出量の削減		14.4 t	14.3 t 以下	14.2 t 以下	14.1 t 以下
水使用量の削減		119 m ³	118 m ³ 以下	117 m ³ 以下	116 m ³ 以下
3Sの実践		12 回	12 回以上	13 回以上	14 回以上
地域貢献活動の実施		4 回	4 回以上	5 回以上	6 回以上

【注－１】 CO₂ 換算

電力（中央電力）：0.45kg - CO₂/kWh

【注－２】 廃プラスチック中間処理

2021.9 月～2022.3 月 破碎

2022.4 月～2022.8 月 圧縮

5. 環境経営活動計画

環境経営目標		環境経営活動計画
エネルギーの有効利用 でCO ₂ 排出量の削減	・CO₂排出量の削減 ・電気使用量の削減 ・軽油使用量の削減 ・LPG使用量の削減	・空調温度の適性化（冷房28℃・暖房20℃） ・エアコン点検（3カ月ごと）とフィルターの掃除 ・不要照明箇所の消灯 ・OA機器の省電力モード設定実施 ・準備作業の実施で設備稼働時間の短縮 ・アイドリングストップを含めエコドライブの実施 ・収集運搬ルートの事前調整で走行距離の短縮 ・タイヤ空気圧を適性値に保つ ・使用湯温を下げ短時間使用の実施
	産業廃棄物中間処理 （リサイクル）の推進 ・空缶処理量 鉄缶 ・空缶処理量 アルミ缶 ・廃プラ破砕量（圧縮量）	・分別の徹底でリサイクル原料化する。 ・新聞広告により収集運搬量を増やす。 ・既存顧客に対する巡回営業と新規顧客の開拓
産業廃棄物排出量の削減		・分別の徹底でリサイクル原料化を図り、廃棄物を削減する。 ・設備のメンテナンス実施で稼働を維持する。
水使用量の削減		・節水の励行 ・洗車時、バケツを活用
3Sの実践		・定期的な清掃、汚した場合の清掃実施
地域貢献活動の実施		・定期的な地域清掃の実施 ・汚した場合の清掃実施

6. 環境経営目標の実績

2021年度（2021.9～2022.8）環境経営目標達成状況は、次のとおりです。

環境経営目標	目標	実績	達成度 評価
エネルギーの有効利用 でCO ₂ 排出量の削減	・CO ₂ 排出量の削減	—	—
	・電気使用量の削減	25,855kwh 以下	○
	・軽油使用量の削減	17,345 ℓ 以下	△
	・LPG使用量の削減	4.5 m ³ 以下	○
産業廃棄物 中間処理 （リサイクル）の 推進	・空缶処理量 鉄缶	10.2 t 以上	○
	・空缶処理量 アルミ缶	20.1 t 以上	○
	・廃プラ破砕量 （圧縮量）	32.8 t 以上	○
産業廃棄物排出量の削減		15.8 t 以下	○
水使用量の削減		121 m ³ 以下	○
3Sの実践		12 回以上	○
地域貢献活動の実施		4 回以上	○

〔注一〕 CO₂換算 電力（中央電力）：0.45kg - CO₂/kWh

【注－2】達成度評価記号 ○：良好（100%以上）△：やや不足（90～100%）×：不適合（90%未満）

7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

2021年9月から翌年8月までの環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容は、次のとおりです。

環境経営目標		環境経営活動計画	取組結果	評価・次年度の取組内容
エネルギーの有効利用でCO ₂ 排出量の削減	・CO₂排出量の削減 ・電気使用量の削減 ・軽油使用量の削減 ・LPG使用量の削減	・空調温度の適性化（冷房28℃ 暖房20℃） ・エアコン点検（3カ月ごと）とフィルターの掃除 ・不要照明箇所の消灯 ・OA機器の省電力モード設定実施 ・準備作業の実施で設備稼働時間の短縮 ・アイドリングストップを含めエコドライブの実施 ・収集運搬ルートの事前調整で走行距離の短縮 ・タイヤ空気圧を適性値に保つ ・使用湯温を下げ短時間使用の実施	△	・電力の使用量は節電の意識と、破砕機から圧縮機に切り替えた事で目標達成出来た。 ・LPガス使用量削減も、計画通り目標達成出来た。 ・軽油使用量は、新規顧客・回収回数の増加、そして営業を兼ねて使用した為、目標未達成になった。 ・次年度は、LPガスは維持管理し、電力使用量・軽油使用量の削減は、継続して取組む。
産業廃棄物中間処理	・空缶処理量 鉄缶 ・空缶処理量 アルミ缶 ・廃プラ破砕量（圧縮量）	・分別の徹底でリサイクル原料化する。 ・新聞広告により収集運搬量を増やす。 ・既存顧客に対する巡回営業と新規顧客の開拓	○	・空缶の鉄缶・アルミ・ペット処理の目標は達成出来た。 ・次年度は今年度の実績を基に目標値を見直し、取り組む。
産業廃棄物排出量の削減 (ビン類分別により増加予測)		・分別の徹底でリサイクル原料化を図り、廃棄物を削減する。 ・設備のメンテナンス実施で稼働を維持する。	○	・分別の徹底でリサイクル原料化をする事が出来、目標達成出来た。 ・次年度も、今年度の実績を基に目標値を見直し、取組む。
水使用量の削減		・節水の励行 ・洗車時、バケツを活用	○	・掃除の回数が増えたが、節水の意識を高め目標達成できた。 ・次年度も、今年度の実績を基に目標値を見直し、取組む。
3Sの実践		・定期的な清掃実施 ・汚した場合の清掃実施	○	・計画どおり目標達成。 ・次年度も継続して取組む。
地域貢献活動の実施		・定期的な地域清掃の実施 ・汚した場合の清掃実施	○	・計画どおり目標達成。 ・次年度も継続して取組む。

8. 環境関連法規の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」です。

その他関連する法規等について、2022年8月に環境関連法規等の取りまとめた「法規制等の一覧及び順守評価記録」に基づき、順守評価を実施いたしました結果、逸脱は、ありませんでした。

また、関係機関及び本社並びに工場近隣からの違反の指摘や訴訟等もありません。

(1) 事業許可一覧（* 積替え保管：無し）

許可番号	事業の範囲	許可の年月日	有効期限
産業廃棄物収集運搬業許可番号 鳥取県 03101002312 (優良)	汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ 廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず等・がれき類の収集運搬（水銀使用製品含む）	平成 28 年 4 月 20 日	令和 5 年 4 月 19 日
産業廃棄物収集運搬業許可番号 兵庫県 02804002312 (優良)	廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・紙くず・金属くず・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの収集運搬（水銀使用製品含む）	平成 29 年 7 月 19 日	令和 6 年 7 月 18 日
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可番号 鳥取県 03151002312 (優良)	感染性産業廃棄物（限定無し） 廃酸（水素イオン濃度指数 2.0 以下）の収集運搬	平成 28 年 4 月 20 日	平成 35 年 4 月 19 日
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可番号 兵庫県 02854002312 (優良)	感染性産業廃棄物（限定無し）の収集運搬	平成 30 年 6 月 7 日	平成 37 年 6 月 6 日
産業廃棄物処分業許可番号 鳥取市 12821002312 (優良)	廃プラスチック類 中間処理：破砕溶融・破砕 圧縮梱包 廃プラ破砕能力：2.9t/日 廃プラ圧縮能力：1.1t/日 発泡スチロール減容能力：0.4t/日	平成 28 年 4 月 20 日	令和 5 年 4 月 19 日

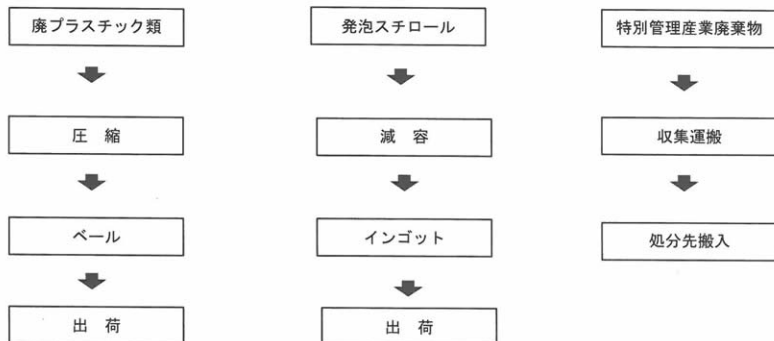
※専ら物・空缶類（金属）は専ら物の許可の範囲で圧縮してリサイクルしています。

(2) 収集運搬車両の種類（合計 3 台）

機器名（車種）	性 能	台数	特記事項
トラック	3t	2 台	箱車
トラック	4t	1 台	箱車

(3) 処理工程

（2022. 4 月～）



9. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21に取り組むことで、全社員の環境意識が高まり、確実に努力が結果に結びつき、ほぼ目標達成することが出来た。
来年度も、目標達成に向け社員一丸となり更なる取組の徹底を図ります。